

かもめ図書館員がすすめる

何度でも読みたくなる本



小田原市立かもめ図書館 平成25年3月号

PC : <https://ilisod001.apse.jp/odawara-lib/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>

携帯 : <https://ilisod001.apse.jp/odawara-lib/wopc/pc/mSrv?dsp=TP>

** インターネットから本の予約ができます! **



ここで紹介している本は、すべてかもめ図書館で所蔵している本です。貸出中のときは予約することもできます。

かもめ図書館員が読んで、何度でも読みたくなってしまおうという本を紹介します。

小説や、旅の案内記など様々なジャンルの本があります。

どうぞ、みなさんの本選びの参考にしてください。



書名	著者名	出版社	請求記号
幸福論	アラン／著	白水社	151.6
迷ったり、悩んだり心が折れそうになった時に、そっと背中をおしてくれる言葉の数々。明日への活力、前に進む勇気を与えてくれます。読むたびに新しい発見があります。若い人にぜひ読んでもらいたい本です。			
東京散歩	雅姫／著	扶桑社	291.3
東京日帰り散歩	雅姫／著	扶桑社	291.3
京都散歩	雅姫／著	扶桑社	291.6
京都てくてくはんなり散歩	伊藤 まさこ／著	文藝春秋	291.6
東京や、京都に行く時、立ち寄りたくなるお店や場所が紹介されています。そこで出会った物や動物の写真をみただけでも癒されます。ファッションも素敵です。			
シルクロードの歩き方	オーシロ カズミ／文・イラスト	立風書房	292
「バケツ、腰巻、ゴムぞうり」を三種の神器にタイ・ビルマ・バングラデシュなど、アジア大陸を一人旅。こんな旅をしてみたいけれど一歩を踏み出す勇気も語学力もない方でも、本の中で一緒に旅をすることができます。			
歌って覚える手話の本	丸山 浩路／著	祥伝社	378.2
好きな歌、知っている歌で手話を楽しく覚えられます。			
ようこそ、私のキッチンへ	有元 葉子／著	集英社	596
おいしくたべよう。素材をいかすレシピ133	栗原 はるみ／著	集英社	596
わたしのおもてなし歳時記	栗原 はるみ／著	扶桑社	596
わかりやすいレシピで食材を生かした料理が掲載されています。器や盛り付け方にもセンスがあり、とても参考になります。			
ごちそうさまがききたくて。	栗原 はるみ／著	文化出版局	596
見ているだけで楽しくなる、ずっと見ていたくなる、とてもきれいな器、盛り付け、セッティング・・・。手軽にできそうな料理ばかりでうれしい本です。			
ごちそうグラタンとあつあつチーズレシピ	主婦の友社／編	主婦の友社	596.3
チーズとグラタン好きにはたまらない本です。レシピも簡単に作れるものばかりです。			
101の幸福なお菓子	山本 麗子／著	講談社	596.6
お菓子作りの基本を確認したい時、簡単なお菓子を作りたい時、ちょっと凝ったお菓子を作りたい時に手にします。			
ママはぼよぼよザウルスがお好き 1～3	青沼 貴子／著	メディアファクトリー	599
幼児期の子育ての大変さを懐かしく思い出した時に読めます。このシリーズの「20歳は過ぎたけれど(リュウ&アン成人編)」(かもめ図書館に蔵書有)や「夫とふたりでもうまく暮らすコツ(ダーリンとのその後)」(かもめ図書館に蔵書有)もおすすめです。			
366日誕生花の本	滝井 康勝／著	三五館	627
一日に一つ、その日の誕生花と花言葉等を紹介した本。話題のネタや贈り物の参考にいいかなと思います。			
北海道ガーデンを旅する		世界文化社	629.2
北海道の美しい風景は見るだけで心が和みます。「風のガーデン」「上野ファーム」など北海道のガーデン街道を紹介。見るだけでも楽しいですが、行ってみたい本です。			
日本百名道 絶景を走る	須藤 英一／著	大泉書店	685.2
日本百名道 美しい日本の道、堂々100選	須藤 英一／著	大泉書店	685.2
日本全国の道の紹介の本ですが、見ていると癒されて、楽しくなります。			
アライバル	ショーン・タン／著	河出書房新社	726.5
文字のない絵本です。絵が細かくて、登場人物の表情が豊か、今にも動き出しそうです。まるで、サイレント映画や、アニメーションを見たような気持ちになります。読むたびに考えさせられる、大人の絵本です。			
85枚の猫	イーラ／写真	新潮社	748
女性カメラマン、イーラが撮った猫の写真集です。ただ可愛いだけでなく、それぞれが実に生き生きと愛くるしく、イーラの優しいまなざしを感じます。			

書名	著者名	出版社	請求記号
吉田都 一瞬の永遠	篠山 紀信／写真	世界文化社	769.1
バレエダンサー吉田都さんのフォト&エッセイ。まず表紙に魅了されました。写真は、舞台でのものから、稽古場、舞台裏でのものまでありますが、特に舞台写真がとても美しくウットリしてしまいます。バレエファン以外の方にもおすすめです。			
心を整える。	長谷部 誠／著	幻冬舎	783.4
「心は鍛えるものではなく整えるもの。いかなる時にも安定した心を備えることが常に力と結果を出せる秘訣だ。自分自身に打ち勝てない人間が、ピッチで勝てる訳がない。」スポーツ選手はもとより、人が生きていく上で大切なことが沢山書かれています。			
声に出して読みたい日本語	齋藤 孝／著	草思社	809.4
10年前に大ブームを巻き起こした、『声に出して読みたい日本語』の第1巻です。タイトルの通り、お腹に力を入れて読み上げると、日本語の美しくリズムカルな調子に改めて気づかれる方も多はず。日本人として、何度も読んで暗唱できるようにになりたいですね。			
一握の砂（『ちくま日本文学全集 30』に収録）	石川 啄木／著	筑摩書房	918.6 チクマ
『一握の砂』の中の「不來方のお城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心」という歌が好きです。歌をよんで、その情景がパーッと浮かんだのは初めてです。			
歲月	茨木のり子／著	花神社	911.5 イバラ
茨木のり子の夫、三浦安信への想いをつづった詩集は、『自分の感受性くらい』や『倚りかからず』で有名な茨木のり子とはまた違った彼女に会ったような気がします。こんなにも心を揺さぶられる詩を詠んだことがなく、時々、彼女の詩に出会いたくなります。			
雨月物語	上田 秋成／著	河出書房新社	913.5 ウゲツ
江戸時代に上田秋成によって書かれた短編集。人の愚かさ、滑稽さ、愛と憎しみ、友情、裏切り・・・人間の様々な姿が九つの物語に凝縮され、読むたびに新しい発見があります。古典を読むのが苦手な人には、現代語訳が色々あります。マンガでも読めます。青山真治、岩井志麻子といった現代の作家によるオマージュ作品もあり、読み比べてみると面白いかなと思います。			
すてきなあなたに 1～3	大橋 鎮子／編著	暮しの手帖社	914.6 オオハ
雑誌『暮しの手帖』に連載されているエッセイ。日常生活の中で、素敵だなと思ったことや、美味しかったもののレシピなどが書かれています。40年くらい前に書かれたものも、古臭さを感じません。日々を丁寧に過ごしたくなる、そんな一冊です。			
地獄変（『ちくま日本文学全集 1』に収録）	芥川 龍之介／著	筑摩書房	918.6 チクマ
学生の頃は、怖い、恐ろしいという気持ちしかわからなかったですが、少し年齢が上がってから読み返すと、ただ恐ろしいというだけではなく、人間の持つ何か引っかかるようになりました。またもう少し年を重ねた時には違う感想になると思います。			
魔女たちのたそがれ	赤川 次郎／著	角川書店	B 913.6 アカガ
会社員の津田のもとに幼馴染で小学校の教師をしている依子から奇妙な電話がかかってきて・・・。閉鎖された町で連続して起こる殺人事件。犯人は誰？ホラー色もある、サスペンス小説です。赤川次郎の作品は難しくないの、どの作品も、スラスラ読めると思います。			
阪急電車	有川 浩／著	幻冬舎	913.6 アリカ
片道15分のローカル線を舞台にした群像劇。一駅に一話の構成で、ちょっとした空き時間に読むにはぴったりではないでしょうか。著者の特色である、恋物語も健在です。			
下町ロケット	池井戸 潤／著	小学館	913.6 イケイ
主人公は、宇宙工学研究の道をあきらめ、実家の町工場を継ぎましたが、倒産の危機に瀕していました。逆境に立たされた主人公が日本のものづくりを担ってきた町工場の意地を見せる痛快小説です。町工場の誇り、譲れない思い、それらに励まされます。日々、ちょっと行き詰った時、前を向かせてくれます。心が折れそうになる時にも手に取りたくなる本です。			
しろばんば	井上 靖／著	中央公論社	913.6 イ
伊豆湯ヶ島で暮らした井上靖の自伝的小説。美しい描写から原風景が浮かび、自分もそこにいる気持ちになってきます。井上靖をもっと知りたくなる小説です。			
敦煌	井上 靖／著	徳間書店	913.6 イ
主人公、趙行徳が進士の試験に失敗し、街を歩いていた時に、売られていた西夏の女を助けると、その礼に一枚の小さな布をくれた・・・。歴史的事実を踏まえた歴史ロマン小説。雄大な景色を思い浮かべ、敦煌に行きたくなります。			
押入れのちよ	荻原 浩／著	新潮社	913.6 オギワ
サラリーマンの恵太が引っ越すことになったアパートには、自称明治39年生まれの子「ちよ」が住んでいた！「ちよ」と恵太の不思議な共同生活が始まりますが・・・。切ないけれど、優しい物語です。			
家日和	奥田 英朗／著	集英社	913.6 オクダ
現代を生きる、家族の家事情を描いた小説です。色々な事情を抱えた家族たちが、日常の小さな隙間に思いを馳せる様子を描いていきます。特におすすめなのが、『妻と玄米御飯』です。痛快な読みごたえがくせになります。			
先生と僕	坂本 司／著	双葉社	913.6 サカキ
さわやかな読後感です。中学生の探偵と、大学生の助手のお話です。二人で身近にある謎を解いていくのですが、現実でありそうで、物語の世界に入り込みやすいです。			
一瞬の風になれ 1～3	佐藤 多佳子／著	講談社	913.6 サトウ
幼馴染の天才スプリンター蓮の美しい走りを見て、陸上部に入ることにした新二。二人を中心に部員は少しずつタイムを縮め、400メートルリレーでは、絆を深め成長していきます。まだ終わってほしくない、もう少しこの陸上部の物語を読みたいと思う本です。			
関ヶ原（『司馬遼太郎全集 14・15』に収録）	司馬 遼太郎／著	文藝春秋	918.6 シバ
関ヶ原の戦いを扱った作品は沢山ありますが、この『関ヶ原』は石田三成側で書かれています。三成が大切にしていた「義」の部分がよくわかります。それがまた勝手な性格として反感を買うところもあります。しかし、読み終わった頃には三成鼻貞になっている作品でもあります。			
竜馬がゆく 1～5	司馬 遼太郎／著	文芸春秋	913.6 シ
現代の日本人の持つ、坂本龍馬像を作ったのが、この作品とのこと。日本文学の中での青春小説、ビルドゥングスロマンといえば、これがイチオシです。			

書名	著者名	出版社	請求記号
みをつくし料理帖 シリーズ	高田 郁／著	角川春樹事務所	B 913.6 タカダ
水書で両親を亡くした少女澁が、大阪から江戸に移り、料理人として数々の困難を乗り越えながら生きていく物語。登場する人物、出来事、料理、とても興味深くワクワクします。シリーズなので、次が待ち遠しくなる物語です。			
走れメロス（『太宰治全集 3』に収録）	太宰 治／著	筑摩書房	918.6 ダザイ
「メロスは激怒した。」の有名な文章で始まる短編小説。とあることから王の逆鱗に触れたメロスは、自分の命と引き換えに友のセリヌンティウスを人質にして、三日間の猶予を得る。三日間のうちに家に帰り、妹の結婚式に参加して、必ず戻ってくるという約束を王としたのだ。メロスは約束を守るのか。歯切れよく、明るく清冽で、後味はすっきりとし、何度も読みたいくなる作品です。			
トワイライト	重松 清／著	文芸春秋	913.6 シゲマ
39歳になった男女が、小学校時代に埋めたタイムカプセルを開封するために集まることから始まるお話。ニュータウン、万博などのキーワードを背景に人生の切なさ、楽しさを味わえます。タイムカプセルに入っていた先生の手紙「皆さんの40歳はどうですか？」にズキンときます。			
鈴の神さま	知野 みさき／著	ポプラ社	913.6 チノ
四国の小さな町の小さな社に住む小さな鈴の神さまと、その姿を見ることができるといわれる人々との交流を描いたお話です。人生に迷っても鈴の神さまとふれあい、未来へと踏み出すことができます。特に最後の鈴の神さまと人間との再会場面は感涙です。			
贖罪の奏鳴曲	中山 七里／著	講談社	913.6 ナカヤ
悪徳弁護士の御子柴礼司のお話かと思ったら、勝ち目のない裁判の国選弁護人を引き受けたり、つらい過去の話など……。御子柴礼司に魅せられて、読むのが止められません。最後の最後に謎が解け、「参りました。」という感じです。			
ファイヤーボール	原 宏一／著	PHP研究所	913.6 ハラ
出世競争に明け暮れる熱血社員咲元が、海外出張から帰ると、社内抗争に巻き込まれリストラにあう。その頃、町内会の役員になり、夏祭りをやることになったが、町内会会長と対立し、「火の玉祭り」をやることに。想像を絶する「火の玉祭り」に笑いが止まらず、元気が出ます。			
ボックス!	百田 尚樹／著	太田出版	913.6 ヒヤク
二人の男子高校生が、ボクシングをしながら色々な経験をして、成長するお話です。ボクシングの事が全くわからなくても、一気に面白く読みました。登場人物が清々しく、読んでいて気持ちがよいです。本格的なボクシング小説なので、ボクシングのこともよくわかるようになります。			
風の中のマリア	百田 尚樹／著	講談社	913.6 ヒヤク
みつばちの一生の話というと、昆虫記のようですが、これを読むと端端で見かけるみつばちが、愛おしく思えます。頑張らなきゃと思う時におすすめです。			
春の雪（豊饒の海 1）	三島 由紀夫／著	新潮社	913.6 ミ
主人公が二十年毎に生まれ変わる輪廻転生の物語、『豊饒の海』の四部作の中の一つ。「春の雪」は、主人公と幼馴染の女性との成し遂げられない純粋な恋物語。この物語の透明感が三島らしくて美しいと思います。			
風が強く吹いている	三浦 しをん／著	新潮社	913.6 ミウラ
個性的な陸上初心者10人が、箱根駅伝を目指す物語です。読むと、走りたくなります。走ることを通じて自分に、自分の心を占めることに向き合う姿が眩しいです。この作品を読んでから駅伝を見ると、みんな、あんなに厳しい状況でがんばって、今、ここで走っているんだと感動します。何度も手にとってしまう一冊です。			
鍋の中	村田 喜代子／著	文芸春秋	913.6 ム
思春期の孫4人とおばあさんの、ある夏休みの物語。情景が浮かんでくるような文章で思わず引き込まれてしまいます。出てくる食べ物も美味しそう。ちょっと不思議なお話ですが、忘れたころに、また読みたくなって手に取ってしまう、そんな一冊です。			
検事の本懐	柚月 裕子／著	宝島社	913.6 ユズキ
クールなのに熱く優しい佐方検事がとても魅力的です。五つの短編どれも、痛快であったり、憤りを感じたり、やるせなさが残ったり……。人間の本质を問い、そして信念と正義を貫く佐方検事の姿に涙が止まりません。			
ムーンライト・シャドウ（『キッチン』に収録）	吉本 ばなな／著	福武書店	913.6 ヨ
冬の夜明け、冷たい空気と青く光る美しい河原。百年に一度起きるといふ七夕現象。突然いなくなってしまった大切な人に会えるとしたら、迷わず橋の上に行ってしまう。大切な人を想う時、読み返したくなる物語。			
影武者徳川家康 上・下	隆 慶一郎／著	新潮社	913.6 リ
関ヶ原の戦いで実は、家康が暗殺されていた。とっさに影武者が本物に成り代わり、なんとか勝利に導き、その後、秀忠とバトルを繰り広げる物語。歴史好きとしては、なぜ家康が最初の方に生まれた子どもに冷たく、後から生まれた子どもに優しくしたのか、不思議でしたが、これを読むとあり得るかもしれないと思ったり、逆にそうかなと思う所もあり、新たな知識を得ると読み返してしまいます。			
わたしを離さないで	カズオ・イシグロ／著	早川書房	933 イシグ
同じ寄宿学校で育ったキャシー、ルース、トミーは大の仲良し三人組。しかし、成長するにつれ、彼女たちの待ち受けていた運命は、普通の人が送る人生とは全く異なっていることを知らされる。命とは何か、人生とは何かを深く考えさせられる作品です。			
オリент急行の殺人	アガサ・クリスティー／著	早川書房	B 933 クリス
名探偵「エルキュール・ポアロ」が活躍する推理小説。ポワロと数十人の乗客が乗ったオリент急行は、大雪のため立ち往生。そんな中、ある男性が刺殺体で見つかる。密室殺人なのに、乗客全員にはアリバイがあって……。驚きの結末に瞠目せずにはいられない、ミステリー界の異色の傑作。			
レ・ミゼラブル 1~4	ヴィクトル・ユゴー／著	角川書店	B 953 ユゴ
あまりの貧困ゆえに一本のパンを盗んだ罪で19年も服役させられたジャン・バルジャンは、この世への増悪にまみれていたが、出所して、ある司教と出会ったことで、改心することを誓う。過去の罪歴からジャベール警官におわれながらも、孤児の少女コゼットを実の子のように育て、愛し、生き貴く姿勢には涙せずにはいられない。『ああ無情』の邦題でも知られる、フランスロマン主義の大河小説。			
時に海を見よ	渡辺 憲司／著	双葉社	YA 159.7 ワタナ
東日本大震災で、高校の卒業式が中止となり、学校のホームページに出された校長先生の卒業生へのメッセージです。若い人に向けられた文章ですが、どの年代の人が読んで、はっと胸を打たれると思います。			
学校では教えてくれないお金の話	金子 哲雄／著	河出書房新社	YA 330
お金って何でしょう？そんな疑問からこの本は始まります。「ドリンクバーは、何杯飲めばモトをとれるか」についてや、「現金割引とポイント還元のお得度」など、生活に使える情報が盛りだくさん！目から鱗が落ちるような情報に出合えるはず！			

書名	著者名	出版社	請求記号
紹介			
詩のころを読む	茨木のり子／著	岩波書店	YA S 911 イバラ
「いい詩には、ひとの心を解き放ってくれる力があります」詩人28人の詩49篇を一つひとつ鑑賞しつつ、優しい語り口で詩の深い世界へ誘ってくれる著者の確かなことばが素晴らしい。中学生の時に合わせて以来の愛読書です。			
RDG レッドデータガール 1～6	荻原 規子／著	角川書店	YA 913.6 オギワ
読み始めたら、一気に読みは確実の作品です。登場人物の学生達がみんな魅力的です。おとなしい性格の泉水子。しかし、実はとんでもない力を持った存在で・・・。彼女をとりまく壮大なスケールのお話です。			
レヴォリューションNo.3	金城 一紀／著	講談社	YA 913.6 カネシ
高校生の青春物語です。生物教師の「きみたち、世界を変えてみたくないか」という一言からゾンビーズを結成。現実の歪みに仲間と共におもしろおかしく立ち向かっていきます。			
りかさん	梨木 香歩／作	偕成社	YA 913.6 ナシキ
小学生のようこがおばあちゃんからもらったお人形の「りかさん」。金色の髪を持ったお人形を想像していたのに、届いたお人形は真っ黒な髪のお人形で、ようこはがっかり。ところが、「りかさん」は少し変わったお人形で・・・。日常生活に潜んでいる不思議な世界へ、ようこと一緒に行ってみませんか？懐かしくて温かくなる物語です。			
おじいちゃんのごらくごらく	西本 鶏介／作 長谷川 義史／絵	鈴木出版	児 E オ
ゆうたはおじいちゃんが好き。いつも一緒です。おじいちゃんはお風呂に入るといつも「ごらく ごらく」と言います。ある日おじいちゃんは急に入院することに・・・。悲しいお話ですが、とても心温まる絵本です。			
くまのこうちょうせんせい	こんのひとみ／作 いもとようこ／絵	金の星社	児 E ク
茅ヶ崎市にある小学校の校長先生が教える「命の授業」。実話から生まれた生まれた物語。元気な時には気づかない事も、弱い立場になって初めてわかる事があります。相手のことを思いやれる・・・。そんな一冊です。			
ぐうぐうぐう	五味 太郎／作	文化出版局	児 E グ
のんびり屋の自分にピッタリでもあり、おおらかな気分になれる絵本です。ちょっと気持ちにゆとりのない時などに手にしてみてください。			
せいぎのみかた ドラフラ星人の巻	みやにし たつや／作・絵	学研教育出版	児 E セ
一見、悪者に見える宇宙人が主人公のお話です。見た目と言葉が通じないために悪者扱いされながらも、大切なものをひたむきに守ろうとする姿は何度読んでも胸にくるものがあります。			
どうぞのいす	香山 美子／作 柿本 幸造／絵	ひさかたチャイルド	児 E ド
優しくして、わかっていてする事ではない、回りまわって、他の人から自分に戻ってくる事なのだと思う一冊です。			
モチモチの木	斎藤 隆介／作 滝平 二郎／絵	岩崎書店	児 E モ
夜、一人でトイレに行けない弱虫で甘えん坊の主人公が夜中に突然倒れたおじいさんのために勇気をふりしぼった、思わず涙がこぼれてしまう物語。秋深まるころになると読みたくなる一冊です。			
おどる12にんのおひめさま	グリム／原作	ほるぶ出版	児 E オ アオ
むかしあるところに12にんのきれいなお姫様がいました。夜は12台のベッドでおやすみのはずなのに、朝になると、お姫様たちの靴はボロボロ。この謎を一人の貧しい兵士が解明しようとして。エロール・ル・カインのため息の出るような美しく繊細なイラストが、物語をよりいっそうひきたえています。			
ふたりはいっしょ	アーノルド・ローベル／作	文化出版局	児 E フ アオ
『クッキー』がとても面白い。クッキーがおいしくて食べたくてたまらないがまくんとかえるくん。「いしりょく」は本当に難しく大変でどうしようもない。シリーズの『ふたりはともだち』（かもめ図書館に蔵書有り）の中の『すいせい』もおすすめです。			
ぼくにげちょうよ	マーガレット・W・ブラウン／作	ほるぶ出版	児 E ボ アオ
どこかへ行きたいこうさが、想像力をたくましくさせて、いろいろなものにへんしんして家から逃げる話をします。すると母親うさぎも負けず劣らず、様々なものにへんしんして我が子を追いかけつかまえようとして。二匹の行きつく先は・・・？母子の絆が描かれた、心温まるお話です。			
まっててね	シャーロット・ソロトウ／作	童話屋	児 E マ アオ
お嫁に行ったお姉さんのようになんでもできるようにになりたいと思う女の子がお母さんに「できるようになるからまっててね」と言う。お母さんは「そのままがいい」と答えます。子供を持つ人にも子供だった人にも「そのままがいい」と受け入れられる大切さを教えてくれる。何度読んでもツーンときます。			
中心のある家 (くうねるところにすむところ 09)	阿部 勤／著	インテックス・コミュニケーションズ	児 527
このシリーズは、大人が読んでみても素敵な内容です。特にこの9は、線のみイラストが多いので、いろいろと思いが広がります。家を建てる前だけでなく、毎日の生活に少しくたびれた時など、居心地の良い、楽しい住まいの本は元気をくれます。			
白鳥異伝	荻原 規子／作	徳間書店	児 913 オギワ アオ
ファンタジーなら是非これを読んでください。ヤマトタケル伝説をもとにしたお話です。遠子と小俱那は双子のように育ちました。しかし、小俱那が「大蛇の剣」を手にした時、2人の運命が変わってしまいます・・・。続きが気になって徹夜すること間違いありません。			
銀河鉄道の夜	宮沢 賢治／作	偕成社	児 913 ミヤザ ミドリ
子どもの頃の純粋な気持ちを思い出させてくれる物語。特に「天気輪の柱」の文章は、暗闇の中に浮かび上がる様々な色を想像することができる。いつか銀河鉄道を旅してみたいと思う。			
にんきもの本 シリーズ 1～4	森 絵都／作	童心社	児 913 モリ アカ
クラスに一人はいる人気者に秘密は？肩の力を抜いてクスリと笑いたい時に読みます。4冊続けて読むと面白さ倍増です。			
鏡の国のアリス	ルイス・キャロル／作	岩波書店	児 933 キャロ アオ
ファンタジーなので、なんとなく心が癒され、大人になっても読みたくなります。「アリス」のシリーズはおすすめです。			
ドリトル先生航海記	ヒュー・ロフティング／作	岩波書店	児 933 ロフテ ミドリ
シリーズ1の「アフリカゆき」からではなく、この「航海記」から読むと、物語の少年と同じ思いで読みすすめられます。目まぐるしい毎日でゆったりしたい、冒険の世界に入り込みたい時におすすめです。			

児 …児童書 YA …ヤングアダルト
E …絵本 S …新書